

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 殿

福岡県病虫害防除所長

平成23年度病虫害発生予報第11号（2月）について

このことについて、病虫害発生予報第11号を発表したので送付します。

予報第11号

果菜類の灰色かび病の防除を徹底しましょう

トマトやイチゴなどの果菜類の灰色かび病は、例年1～2月頃より増える傾向があります。比較的低温で多湿の場合には、果実等が結露し発生が多くなるので、株間の通風を図るなど、湿度の低下を図りましょう。

今後の発生状況には十分注意して、発生を認めたら薬剤防除を徹底しましょう。また、罹病した葉や果実は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。



トマトの灰色かび病（葉）



イチゴの灰色かび病（果実）

<予想される向こう1か月の天候（平成24年1月14日～平成24年2月10日）>

平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並か低いでしょう。降水量と日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か高い、2週間目は低く、3～4週間目は平年並か低いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	40	40	20
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

（福岡管区気象台 平成24年1月13日発表抜粋）

2月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (2月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 ハダニ類	少 並	やや少 並	並 並
冬春ナス	すすかび病 ミナミキイロアザミウマ	多 多	やや多 多	多 並
冬春トマト	葉かび病	少	少	並
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病	やや多 多	やや多 多	多 多
冬レタス	菌核病	やや多	やや多	多

作物別発生予報

注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。  
 注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

【野菜：冬春イチゴ】

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。

発病株率 0.2%（平年 1.2%、前年 0.3%）

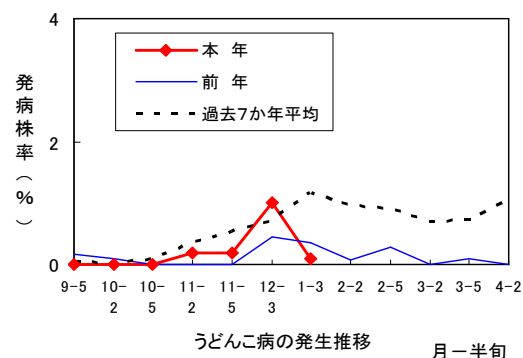
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている（-）。

(3) 防除上の注意

ア 早期発見に努め、下葉かぎ後、葉液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

イ ハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え異なる系統の薬剤を散布する。



2 ハダニ類

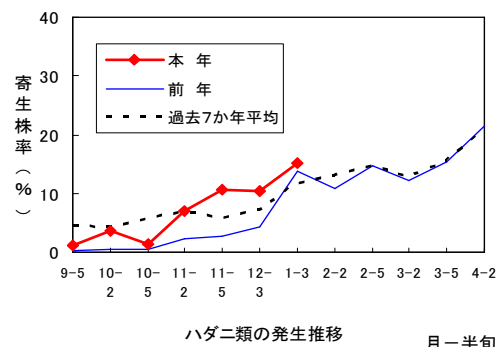
(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 1月3半旬調査の結果、発生量は並であった（±）。  
 寄生株率 15.2%（平年 11.7%、前年 13.8%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている（-）。



### (3) 防除上の注意

- ア 本種は、はじめスポット的に発生し、下位葉ほど寄生が多いので、葉かぎ等の管理作業時によく観察し、発生を認めたら早めに防除を行う。
- イ 防除は摘葉後に行い、葉裏に薬剤が十分にかかるようにする。
- ウ 摘葉や除草した雑草は、ほ場内に放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。
- エ カブリダニ類等を放飼しているほ場では、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布する。

## 【野菜：冬春ナス】

### 1 すすかび病

#### (1) 予報の内容

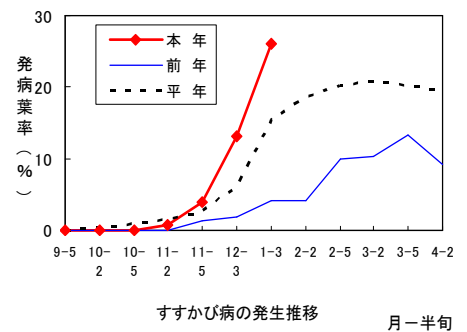
発生量：平年よりやや多、前年より多

#### (2) 予報の根拠

- ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)。発病葉率 26.1% (平年 15.3%、前年 4.1%)
- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている(-)。

#### (3) 防除上の注意

- ア 多湿条件下で発病が進展・増加するので、施設内の換気を図る。
- イ 草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。
- ウ 病徴が進展してからでは防除が困難なので、発病初期に防除を徹底する。
- エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 2 ミナミキイロアザミウマ

#### (1) 予報の内容

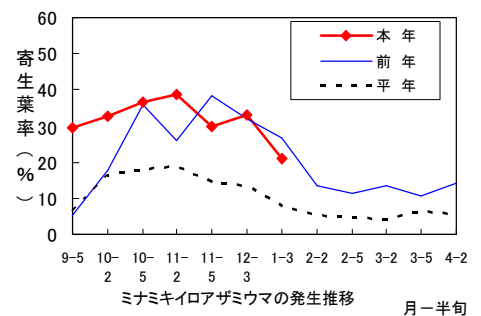
発生量：平年より多、前年並

#### (2) 予報の根拠

- ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)。寄生葉率 21.0% (平年 7.8%、前年 26.6%)  
被害果率 0.9% (平年 0.5%、前年 0.6%)
- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年か低く、降水量は平年並とされている(-)。

#### (3) 防除上の注意

- ア 葉裏への寄生が多いので、散布むらがないように丁寧に散布する。  
多発ほ場は、散布約1週間後に再度防除を行う。
- イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 【野菜：冬春トマト】

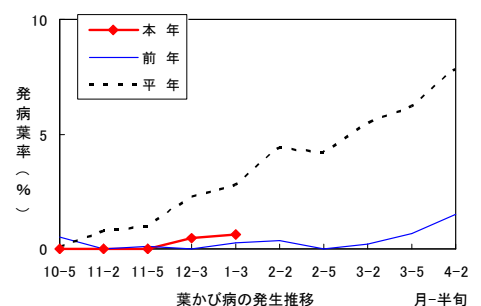
### 1 葉かび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

#### (2) 予報の根拠

- ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。発病葉率 0.6% (平年 2.8%、前年 0.3%)



イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている（－）。

(3) 防除上の注意

アハウスの換気を行い、多湿にならないように管理する。

イ 抵抗性品種での発生も確認されているので、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、葉かび病の発生に注意する。

【野菜：冬春キュウリ】

1 ベと病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多・前年より多

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった（＋）。

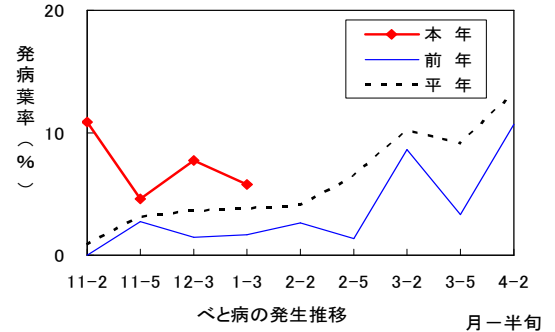
発病葉率 5.8%（平年 3.8%、前年 1.7%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている（－）。

(3) 防除上の注意

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。



2 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

(2) 予報の根拠

ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年より多かった（＋）。

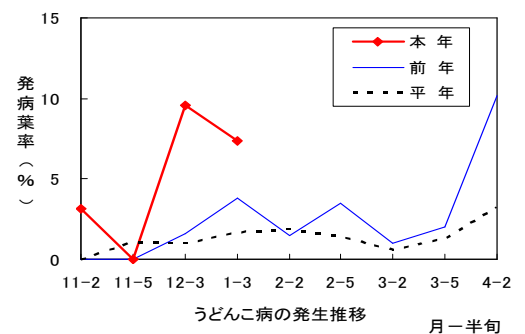
発病葉率 7.3%（平年 1.7%、前年 3.8%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている（－）。

(3) 防除上の注意

ア 罹病葉はできる限り除去するとともに、葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 窒素肥料の多用は本病の発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。



【野菜：冬レタス】

1 菌核病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 1月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった（＋）。

発病株率 2.3%（平年 1.0%、前年 4.0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か低く、降水量は平年並とされている（－）。

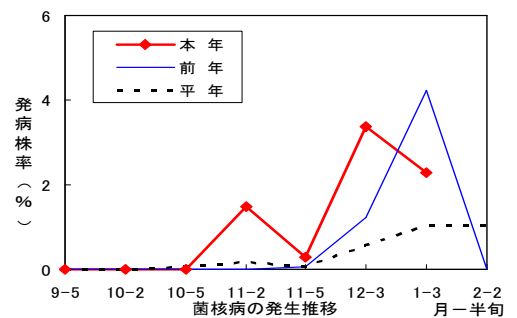
(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は発病初期に重点をおき、株元や葉裏にも薬液が十分にかかるように散布する。

イ トンネル栽培では換気を行い、多湿にならないように管理する。

ウ 被害株は菌核をつくらないうちに早めに除去・処分し、ほ場内に残さないようにする。

エ 多発ほ場では連作を避ける。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (2月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	少	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病果は見つけ次第除去する。</li> <li>また、下葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。</li> </ul>
冬春ナス 灰色かび病	少	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病葉や罹病果実は早めに除去し、ほ場外で処分する。</li> </ul>
うどんこ病	少	少	並	
コナジラミ類	少	少	並	
冬春トマト 灰色かび病	やや少	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>開花後の萎れた花卉は、伝染源となるので取り除く。</li> <li>本種は、トマト黄化葉巻病(TYLCV)の媒介虫である。</li> <li>発病株は、早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出すとともに、本種の防除を徹底する。</li> </ul>
コナジラミ類	並	並	並	
冬春キュウリ 灰色かび病	やや少	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>開花後の萎れた花卉に、灰色のかびを認めたら防除を開始する。</li> <li>本種は、キュウリ黄化えそ病(MYSV)の媒介虫である。</li> <li>発病株は、早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出すとともに、本種の防除を徹底する。</li> <li>本種は、キュウリ退緑黄化病(CCYV)の媒介虫である。</li> <li>発病株は、早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出すとともに、本種の防除を徹底する。</li> </ul>
褐斑病	少	やや少	並	
ミナミキイロ アザミウマ	並	やや少	並	
コナジラミ類	並	並	並	
冬キャベツ 菌核病	やや多	やや多	やや多	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病株はただちに抜き取り処分する。</li> <li>形成された菌核は、ほ場に残さないようにする。</li> <li>結球期前の防除を徹底する。</li> </ul>
黒腐病	並	並	並	
コナガ	少	やや少	並	
冬レタス 灰色かび病	やや少	やや少	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>トンネル内が過湿にならないように、朝夕に被覆資材の開閉を十分に行い、換気に努める。</li> <li>冬に凍害にあうと被害が激しくなるので、トンネル被覆が遅れないようにする。</li> </ul>
腐敗病	少	やや少	やや少	

# 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

## 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。  
(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

## 2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

## 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

## 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

## 5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

## 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。  
また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>  
電子メール [kfok0301@sp.jppn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jppn.ne.jp)